



THE Y'S MEN'S CLUB OF



Osaka-Kawachi

2008年5月報

Vol 391

2007~2008年度【主 題】

クラブ主題 「クラブはひとつのオーケストラ」

丸尾欽造

阪和部主題 「共に楽しく歩もうワイズライフ」

遠藤通寛 (大阪泉北クラブ)

西日本区主題 「Let's move forward with conviction!」「確信を持って前進しよう!」

神谷尚孝 (和歌山クラブ)

アジア主題 「Service Without Borders」 国境なき奉仕

藤井寛敏 (東京江東クラブ)

「Let's join under the Y's Men's Flag」 ワイズメンの旗の下に

国際主題 「Service Without Borders」 国境なき奉仕

Lasse Bergstedt (デンマーク)

「Let's Show-Let's Grow」 示そうワイズ! 伸ばそうワイズ!

【今月の聖句】 コリント人への第2の手紙 4章18節 (選・解説 岩坂正雄)

私達は、見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは、永遠に続くのである。

(--- 夫は妻に、妻は夫に、目には見えない価値を見出しましょう。 ---)

次期会長・主査研修会に参加して

山内 信三



恒例の次期会長、主査研修会が3/15(土)~16(日)の日程で新大阪駅に近いチサンホテルで開催されました。大阪河内Y'sからは、阪和部の次期ファンド主査の丸尾欽造さん、阪和部の次期書記の正野忠之さん、西日本区書記の望月強さんと小生の4名が参加しました。全体で160余名と西日本区の各地から多くの方が参加され、よく準備された資料とびっしりと組まれたスケジュールにそって内容の濃い研修が行われ、現在の執行部の熱意が伝わって来

ました。

印象的だったのは、EMCへの取り組みで、今年度は数年にわたっての漸減傾向に歯止めがかかり、会員数が1700名を超えての増加が報告された事です。各クラブと各部での積極的な取り組みが報告され、澤田賢司EMC事業主任の熱意が伝わって来ました。

「メンバーの増加はクラブ例会の充実から」との地道な取組の大切さを教えられました。西日本区では会員数2000名を目標に掲げて「推進チーム」が活動していますが、この熱意があれば遠からず達成されると感じました。

個人的に印象に残った事は、次次期日本区理事に鈴木誠也さんが、また次期の六甲部部長に山口政則さんが就任され、元気な顔を見せておられた事です。お2人共、元YMCA主事で共に働いた仲間との気持ちからY'sとYMCAとの良い関係が人を通してつながっている事をうれしく思いました。

毎月の例会を大切に楽しく充実したクラブライフを大阪河内クラブの全員の力で盛り上げてゆきたいと思えます。

5月例会プログラム

5月15日(木) サンホーム6F

メネット例会

司会	伊藤玲子さん
開会点鐘	丸尾メネット会長
メネットソング	— 同
聖句朗読	初田真佐子さん
ゲスト&ビジター紹介	司会者
会長の時間	丸尾 会長
インフォメーション	各 担当
食前感謝	新本力子さん
食事	— 同
ゲストスピーチ	鍛治田千文氏
テーマ	「表現・コミュニケーション学科の取組」
誕生・結婚祝	丸尾メネット会長
にこにこアワー	新本君 & 正野君
YMCAの歌	— 同
閉会挨拶・点鐘	丸尾メネット会長

会 員 数	22名	ゲスト&ビジター	10名	4月度BFポイント	書き損じハガキ	にこにこファンド
(広義&メネット会員)	0名	メネット&コメント	5名	現金	4月分	4月分
会 員 出 席 者	18名	例 会 出 席 者	33名	累計	0円	22,400円
メ ー ク ア ッ プ	1名	役 員 会 出 席 者	13名	切手	Opt	累 計
4 月 の 出 席 率	86.4%	4 月 の 全 出 席 者	46名	累計	0円	180,450円

前月の出席率訂正 %を %に訂正いたします。

4月例会報告

--サンホーム 6階 --

記録 伊藤圭介

2008年4月17日(木 18:30~21:00)

出席者(敬称略)

メソ 佐古・芳澤・新本・初田・藤井・伊藤・丸尾・大谷・尾北・横田・望月・濱添・山内・石倉・田中・宮本・岩坂・正野・

メネット 初田・伊藤・望月・佐古・新本
ゲスト&ピジター

今井利子(なかのしま)・松岡虔一(サウス)・遠藤通寛・典子・山田理學・佐々木貞子(泉北)・岡山信秀・平木なおみ(スピーカーの友人)・川合文太(東Yスタッフ)・秋ゆたか(ゲストスピーカー)

以上 33 名

卓和內容

本日は、「音楽と心の癒し」というテーマで、お話しさせていただきます。

讚美歌を歌っておりますと、不思議と心が癒される、あるいは胸が熱くなる、そんな経験を致します。その理由について、まず「音楽の三要素」という視点から迫ってみることにいたしましょう。

<音楽の三要素>

音楽の三要素とは、一般に「リズム」「旋律」「和声」の3つとされています。

1. リズム (rhythm)

まず「リズム」ですが、これはどのような長さの音符を組み合わせる音楽を作るか、ということです。

皆様よくご存じの讚美歌 312 番「いつくしみ深き」では、「タータ タタタ タター、タータ タタタ ター」というリズムが 4 回繰り返されています。同じリズムパターンを繰り返すことで、歌そのものが覚えやすく、歌う人の気持ちもまとまりやすい、そんなメリットがあります。

また、讚美歌 77 番「み神のちからは」のように、途中で違うリズムパターンを挟むもの、あるいは讚美歌 111 番「神の御子は」のように、最初のリズムパターンの後半部分を使って、曲の後半を盛り上げていくものなど、さまざまなパターンを見ることができます。

2. 旋律 (melody)

次に「旋律」ですが、この背景にあるのが「音階」という要素です。

私たちにとって一番なじみがある音階は「ドレミファソラシド」、いわゆる「ドレミ音階」でしょう。「ドレミ音階」では「ミとファ」「シとド」の間が「半音」、その他が「全音」(半音 2 個分)開いています。2 つの半音階が含まれていることによって、旋律に何とも言えない優しい響きが生まれます。

もし全ての音程を全音にして音階を作ると「ドレミ ファ ソ ラド」となり、夢幻の世界に迷いこんだような、独特の響きがいたします。

一方、「ドレミ音階」から「レ」と「ラ」を抜くと、「ドミファソラド」という音階になります。これを聴くと、目の前に沖縄の海の情景が広がってきましたね。そうです。これが「琉球音階」と呼ばれるものなのです。

また、日本的な「和音階」というものもあります。これは「ドレミ音階」から「ファ」と「シ」を抜いたもので、「ドレミソラド」の音からできています。いかにも日本人がホロリときそうな響きがしますね。

以上からおわかりのように、旋律がどのような「音階」に従うかによって、音楽から受ける印象が変わってきます。讚美歌はこうした「音階」を巧みに使うことで、私たちの心の琴線に触れるような旋律を作り出しているのです。



本日の司会は芳澤伸之君です。開会時間を少し過ぎての開始でした。

遠藤 道寛阪和部長の 2 回目の公式訪

問でした。

「今期もあと残す日も少なくなりましたが、大阪河内クラブのご協力とご支援に感謝します」と述べられました。



卓話：秋 ゆたか先生。東京大学医学部卒、生駒市で臨床研究支援センターを開業されています。佐古さんとは大阪小阪教会の会員同士というご縁でお招きできました。

映像、音楽、live 演奏も含めてお話の内容は一貫して判り易く、特に音楽が心を癒すメカニズムについては映像に併せて実際に音楽を流され、デコーダーも live で演奏して頂きましたが、本当に楽しい夢の世界を漂っている雰囲気になりました。特にアンコールで歌って頂きました、「千の風になって」は心にしみわたり、最近親しい友人を亡くしたメンバーから癒されました、という感想と「少し最近落ち込んでいましたが元気を頂きました」と感謝をのべておられるメンバーもおられました。

秋先生から詳しい卓話の内容を頂いており、ブリテンに記載させて頂いておりますのでご覧頂ければ幸いです。



3. 和声 (harmony)

最後に「和声」についてですが、これはどのような順序で「和音」が繋がっていくか、すなわち「和声進行」という視点からとらえることができます。

たとえば、さきほどの半音階どうしの音である「シ」と「ド」を一緒に鳴らすと、とんでもない濁った響きがします。まさに不協和音です。

しかしこのような和音が鳴った後に、「ラ」と「ド」という協和音が響くとホッとします。最初の不協和音が緊張感を生み、その後続く協和音の安心感を高めてくれるのです。

このような「緊張と緩和」の組み合わせが、心の癒しにおいて最も効果的と言われています。

「不協和音 協和音」というパターンの他に、「短調 長調」に移行するパターンもあります。讃美歌の中には、短調の曲が一割ほどありますが、最後の「アーメン」の部分は例外なく長調に転調して終わります。

以上のように、「音楽の三要素」という視点から讃美歌を見直して(歌い直して)みますと、心を癒す音楽には、それなりの理由があることがわかります。

< 作曲家別に見た音楽と心の癒し >

次に、有名な作曲家の作品を演奏しながら、その秘密に迫ってみましょう。

1. ヴィヴァルディ (A. L. Vivaldi)

まずご紹介するのは、ヴィヴァルディの「四季」です。「四季」は日本でも非常に人気のある曲ですが、これは作曲者ヴィヴァルディが生まれ育ったイタリアという国が、日本と同様に四季の移り変わりがあることと無縁ではないでしょう。

「四季」の特徴は、いろいろな光景を音楽で描写していることにあります。楽譜の中に作曲者自身の言葉で説明が書き込まれていますが、音楽を聴いただけでも、おおよそどのような光景なのかを思い描くことができます。

特に、狩りの情景を描いた「秋」の第3楽章は、心がウキウキするような躍動感に富む明るい音楽です。

2. バッハ (J. S. Bach)

「音楽の父」とも呼ばれるバッハの音楽は、常人では至り得ない深遠な境地を味わうことができます。

たとえば、彼の代表作である「マタイ受難曲」では、様々な形で、あたかも暗号のような「象徴」が音楽の中に組み込まれています。

マタイ受難曲の前半に「最後の晩餐」の場面があります。ここで主イエスが「裏切る者の存在」をほのめかすと、弟子達が「Herr, bin ichs? (主よ、私でしょうか?)」と尋ねる様子が四部合唱で描かれています。この部分の楽譜をよく見ると、前述の「Herr, bin ichs?」という歌詞が11回だけ書き込まれていることがわかります。

そうです。ユダだけはこの言葉を言っていないのです。

こうした象徴的な表現は、音楽を耳から聴いただけではなかなかわかりません。

もちろんバッハの音楽そのものも、前述の「音楽の三要素」が巧みに工夫され、心に迫るものがあります。

この合唱の後には、「罰を受け、手足を縛られなければならないのは、この私です(ich bins)」という歌詞で始まる、感動的なコラールが続きます。

私は、マタイ受難曲を中学2年生のときに初めて聴きました。もちろんドイツ語の歌詞の意味はわからないし、音楽をBGMにして何かの作業をしていただけなのですが、このコラールが始まったときには、思わずハッと顔を挙げ、作業の手を止めて音楽に聴き入ってしまいました。

後に、ドイツ語やバッハの楽譜そのものを学ぶようになって、この曲に秘められた奥義を知るにつけ、感動がより深いものになったのは言うまでもありません。

3. モーツァルト (W. A. Mozart)

バッハの音楽は宗教的感動に満ちた素晴らしいものですが、あまりに中味が濃くて、気軽に聞き流すというわけにはいきません。

それに対してモーツァルトの音楽は、天国的な明るさに満ちていて、短調の曲さえも楽しく聞こえてしまう、そんな魅力に溢れています。したがって、音楽療法の世界でも、心の癒しに最も効果的な作品として多用されています。そればかりか、「乳牛の乳の出がよくなる」「お酒が美味しくなる」「野菜の収穫量が増える」といった報告さえあります。

確かに心が癒される音楽なのですが、演奏する方は大変です。

たとえば前述のヴィヴァルディの音楽は、もちろん技術的にも大変難しいのですが、ゴマカシがきかないわけではない。しかしモーツァルトの作品は、楽器の操作上、無理難題ともいえる動きを要求され、しかも一音でも間違えると音楽が成り立たなくなってしまう、そんな難しさがあります。

そのため、オーケストラにおける新入団員のオーディションや、コンクールの課題曲として必ずと言ってよいほど出題されています。

とはいえ、練習を重ねてきちっと演奏できたときの爽快感は格別です。聴く方も演奏する方も、ともに心癒される音楽と言うことができます。

4. 秋ゆたか

大作曲家と並べて自分の名前を出すのはおこがましい限りですが、私もこの数年は作曲家としての活動を続けております。

もっとも私は鍵盤楽器を上手に弾けませんので、作曲はもっぱらコンピュータが頼りです。最近のコンピュータソフトを使えば、128種類の音色を出すことができ、その組み合わせを変えることで、大オーケストラにも引けをとらない演奏を再現することができます。

ホンモノのプロのオーケストラを何時間も雇うこ

とは事実上不可能ですが、コンピュータの世界ならば、自分で作曲した曲を心ゆくまで聴き、また推敲することができます。このソフトのお陰で、私は自分の心に湧き出てくる音楽を、楽譜という形に表し、また実際に演奏したり、CD化したりといった作業ができるようになりました。



昨年(2007年)の1月からは、月に1~2回、小阪教会の奏楽を担当させていただいております。そのときには、讃美歌の伴奏をオーケストラとパイプオルガンに編曲し、歌詞の内容に合わせて音色を変えてみたり、前奏・後奏にはできるだけ自分の作品を演奏するといった工夫をしております。もし機会がありましたら、小阪教会の礼拝にも是非いらしてみてください。

まだまだ音楽家としては駆け出しですが、自分なりに新しい取り組みをしています。そのひとつが、「音楽と朗読との融合」です。

おそらく皆様の教会でも、聖書朗読は「素のまま」、つまりBGMなどは付けずになされているでしょう。御言葉は、何の飾りも付けずに語り、また受け取るべきであるという主張もありましょう。ただ、音楽の力は絶大です。適切なBGMをつけることで、より心に迫る朗読が可能になるという側面も看過できません。



たとえば、有名な「良きサマリア人」のストーリーの後半の一節。

「ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。」

ここを読みながら、讃美歌 351 番「友という友は」を聴くと、本当に涙が出るほど感動します。

ところで、Footprints(足跡)という詩をご存じて

しょうか？

欧米では大変有名な詩なのですが、作者は不詳ということになっています。というより、あまりに有名になってしまったために、少なくとも3人の作者が名乗り出て、著作権を巡る法的争いを繰り返しているというのが事実です。

そのことはともかく、この詩の内容には本当に心を打たれます。

人生で最も辛く悲しいとき、一緒に歩いてくださるはずの神様の足跡が消え、自分の足跡だけが砂浜に残っている。そのことで神様に疑問をぶつけた男に対して、神様は優しく語りかけられた。

「お前はなあ、私の大事な大事な子やねんで。お前が一番辛うて悲しいとき、確かに足跡は一人分しかないけどなあ、それはそのとき私が、お前を背負うて歩いとったからや」



この詩から、神様と人間の関係性における三つの大切な要素を学ぶことができます。

一つは、「神様は私たちと共に歩み、ときに背負ってくださる身近な存在である」こと。

二つ目は、「神様は私たち人間の嘆きに耳を傾けてくださる方である」こと。

そして三つ目に、「神様は私たちの迷いを責めることなく、愛をもって応えてくださる」ということです。

私はこの詩を関西弁に訳し、講演会などで自作のBGMに合わせて朗読するのを常としています。ゆくゆくはCD化も計画しておりますので、是非お聴きになってみてください。

これからも音楽と心の癒しのつながりを求めて、努力していく所存です。

本日は、大切なひとときにお招きをいただき、誠にありがとうございました。



にこにこ語録(4月例会)

テープ起稿 大谷美佐子

- 遠藤阪和部部長** 韓国で線のないギターを弾いてきます。口三味線です。
- 岡山** 今日はおよびいただいて有難うございました。先生、お疲れさまです。
- 平木** グループホームに介入しておりまして、幾つになってもいい余生を迎えられるようにと励んでおります。皆さん方にご縁がありましたらよろしく願います。
- 宮本** すばらしい歌とお話有難うございました。私、多発性骨格症です、発病して1年間で進行しました。進行を止めるためにモーツアルトの音楽療法をしました。進行がただいま止まっています。モーツアルトすごいです。作業所の開所式にはお手伝いいただき大変有難うございました。
- 伊藤** 私、20歳ぐらいの頃に先生にお会いしていたらもっと音楽が好きになって造形が深くなっているのではないかと。河内のおっさんですがクラシックのCDを沢山もっています。今日のお話を参考し、じっくりと聞きたいと思います。
- 伊藤メ** 楽譜はよう読みませんが、先生の線をおっていただきたい判りました。童謡や叙情歌が大好きで、月に一回施設でおもいきり声をだしています。これが健康法だと思ってます。悲しいときも、嬉しい時も歌によって支えられているのが先生のお話によって良く判りました。歌と共に生きて行きたいと思います。
- 大谷** お誕生日有難うございました。先生今日はすばらしい歌声有難うございました。コンサート開かれたら聞きに行きたいです。
- 佐古メ** 何時も先生有難うございます。この声でいつも指導していただくのです。教会とはまた違った雰囲気よかったです。今日のご指導でモーツアルトの曲が大変難しいのがわかりました。これからも宜しくお願いします
- 初田メ** 楽しい例会有難うございます。試練を与えられ、それを乗り越えていかななくてはとの思いでありまして、今日は本当に良かったです。モーツアルトのCDでも買いたいと思います。
- 望月メ** 先生の「千の風になって」とてもすばらしかったです。CDだされたらどうですか。
- 新本メ** オペラを聞いているような声量があって驚きました。難しい本を書いたり、音楽を、私と同じ時間しか持っていないのに。私、神様に申し訳ないです。
- 横田** 根っからの音痴で孫の前では歌はないように娘に言われています。CDをもっぱら聞く方です。
- 田中** 家内がコーラスをしています。いいお話だったので連れてくれば良かったです。家内、気持ちがとても疲れていまして来れなかったのですが・・・無理にでも連れて来たらよかったです。
- 初田** 試練の最中におります私です。普段から何か貰うの好きなんで、いろいろ頂くんですが此の度、病名を四つもいただいて非常に落ち込んでおります。先生のお話聞いて、音楽聴いたら生きていけるのがわかりました。音楽音痴ですが気持ちのいい音楽はやっぱりいいんですね。これから聞きます
- 望月** 遠藤部長ご訪問有難うございました。大阪弁の詩もいいなあ。大阪弁のイントネーション、よう慣れてはるなと感心しました。つくづく大阪弁の良さを知りました。



- 新本** 出だしから阪和線の3人のおばちゃんの話で大変おもしろかったです。音楽の深い所まで聞かせていただき有難うございます。もっぱらパソコンの音楽を毎日聞いています。
- 尾北** サンホームの施設長をしています。今日は心豊かに癒されて良い気分です。歌手の方や色々催しをしますが、認知症の方も出来るだけ参加しています。音楽の効用をスタッフで感じています。
- 正野** 3月はお休み、今日は遅刻しました。遠藤部長ごめんなさい。遅れて来て音楽を聴きながら食事できたのは得した気分です。先生の略歴拝見して、訳がわかりません。東大医学部を出られてこの後どういう人生を歩まれるのか興味津々です。
- 佐古** 部長の訪問有難うございました。秋先生、天国に行き易いようなご指導をおねがいします。
- 今井(なかのしま)** 和音というのはB29の音や日本の飛行機の音の区別で習いました。ドレミは習っていません。40年前にママさんコーラスをつくり、第一回の司会をしました。息子を亡くしやはり寂しく悲しいです、しかし、先生の「千の風」は違いました。元気いただいたように思います。
- 佐々木(泉北)** 音楽と心の癒し有難うございました。私、失業という試練をいただいています。癒しをささえに立ち向かっていきます。
- 遠藤メネット主査(泉北)** 私は通り抜けに行つて心の癒しをしてきました。今日は河内で先生の癒しをいただきましたこれを明日に繋げていきたいです。
- 山田(泉北)** こんなステキな例会に参加させていただき有難うございました。
- 松岡(サウス)** すばらしい音楽を有難うございました。先月は16日間入院してまして、胆のうを摘出しました。その前は前立腺がんで前立腺を取り出して、臓器がだんだん少なくなってきました。まだ脳の方は大丈夫ですので五月もきます。
- 山内** 演歌も癒しの効果あるでしょうね。(ハハハ・・・)最近番組がすくなくいです。聞くと涙です、年のせいですかね。モーツアルト・パツハにも親しみたいと思えます。
- 丸尾** 心を癒すための自分の曲がありまして、アルベニスのスペイン組曲のアストーリヤスやアラベス協奏曲や六甲おろし、モーツアルトが六甲おろしをアレンジしたらもっとも癒しになるかな。先生お願いします。
- 芳澤** 本当の癒しの音楽だなあと思ったのは、こちらから見えていたらかなりの方の臉が閉じていくのがすぐわかりました。ぜひともサントリーホール当たりで発表会してください。
- 石倉** 今月から新しいお仕事初めまして疲れていますので今日のお時間有難うございました。
- 藤井** 夫とふたりで出かけるのは唯一コンサートです。ウイン・フィルに行くかどうか料金表をみて悩んでいます。
- 秋先生** 本当に楽しい会に呼んでいただいて有難うございます。身にあまるお言葉を沢山いただきまして、今お伺いしながらひしひしと神様の力だと感じています。ぜひ呼んでいただけたら喜んでまいります。



本日のにこにこは 22400 円でした。

第12回らくらく車椅子登山

横田憲子



昨年のような不安な空ではなく、天気にも恵まれた4月27日(日)9時サンホーム集合、そして10時を少し遅れて、“第12回のらくらく車椅子登山”をスタートいたしました。無線資格者1名と委員長、そしてティンカーベルの宮本桂子メンや石倉明美新入会メンなど4グループが先頭を登ります。まだ寒さの残る朝の駐車場でしたが、登っていくうちその冷たい風が心地よくなってきました。途中ガイドウォークのパークレンジャーの皆さんが、生息する植物の名前やフィルムケースに用意されたにおいて植物を当てるクイズそして植物の漢字クイズ、又ハーモニカの演奏もあり、毎年工夫をして下さっているのが楽しみです。その後はこれら植物の話題とにぎやかな皆さんの会話が続いていました。



途中、下見でみはらし台のトイレが火事で消失していることの報告がありました。現場に差し掛かるとやはりどうしてこんなことをするのだろうか、いつもはすばらしい景色で楽しめるポイントでしたから、残念でしたが、山火事



に至らなかったことだけが救いに思いました。

12時には、いこいの広場で161名の昼食が始まりました。心配の寒さはなく子供たちは崖のぼりを楽しんでいました。その後、参加下さった方々の紹介とウエルネスのリーダーの“幸せなら手をたたこう”をみんなで歌いながら手遊びを楽しみました。今回のらくらく車椅子は24名の方でした。そしてサポーターはリッツカールトンホテル大阪から若人30名・無線クラブからは増石さん他5名・パークレンジャーの6名・高校生4名・他ワイズからサウスクラブ5名・長野クラブ1名・泉北クラブ1名・ヴェクセルクラブ2名・ウエルネス家族15名・NPO法人ティンカーベル7名・オンブズマン2名・リーダー4名・東YMCAスタッフ・河内クラブ家族等総勢166人、こんなに多くの元気な支援をいただき予定の時刻2時に無事下山を終えることができました。皆様に心より感謝申し上げます。私たちにはまだ検討課題が残され、楽しく安全に気をつけ“13回らくらく車椅子登山”に取り組む必要があると思っています。



阪和部ウエルネスウオーク

田中 惟介

午前6時、藤井主査のメールで決行の通知が有り曇り空の下、集合地JR和歌山へ向かった。総勢34名が揃い、ほぼ定刻に出発。バスの中では自己紹介やお茶の配布、(イチゴもあったなあ) サザンの玉葱のアピール、手作り歌集での合唱等があり約2時間でスタート地の道の駅へ到着。まず牛馬童子～近露王子～なかへち美術館まで歩く。熊野には“ひだる神”という地霊が居てそれが憑依すると空腹の余り動けなくなるそうだ。朝が早かったせいもあり出発時に既に憑かれてしまったようで足が重い。

美術館はあいにく改装のため休館であったがその周辺で昼食をとり、田辺クラブの前田ワイズの差し入れ(夏みかん)をいただく。歓談の後再出発。野中の一方杉の巨木に感嘆し、ふき、ぜんまい、みつば等の山菜を摘みながら継桜王子～とがのき茶屋、秀平桜～野中の清水まで歩き バス乗車。

約6.5kmの程よいコースであった。帰りの車中でもピンゴや歌の指導があり行き届いたホスピタリティーに感謝。5時過ぎに解散した。

クラブ参加者 = 望月夫妻・田中



牛馬童子の説明をする語り部の東(あずま)さん



近露王子像 大本教の出口和三郎筆



とがのき茶屋

第33期 第11回役員会

2008年4月24日(木) 東YMCA
“クラブはひとつのオーケストラ”
 日本区強調月間 LT

出席者

丸尾・山内・初田・芳澤・望月・新本・岩坂・正野・
 中野・大谷・横田・濱添・佐古・

5月例会

5月15(木) サンホーム

担当: Bグループ

新本・大藪・正野・初田・中野・丸尾初子

ゲストスピーカー 鍛治田千文氏

タイトル 表現・コミュニケーション学科の取組

5月例会役割分担

司 会 伊藤玲子さん 聖句朗読 初田眞佐子さん

食事手配 正野忠之 君 食膳感謝 新本力子さん

ニコニコ 新本英二 & 正野忠之 君

受 付 中野義彦 君

6月号ブリテン原稿

コーヒーぶれいく 初田 稔 君

役員会報告 大谷美佐子 君

例会報告 伊藤玲子 君

Yニュース 鈴木えみ 君

サンホームニュース 尾北 昇 君

メネットコラム(私の独り言) 丸尾初子 さん

にこにこテープ起し 大谷美佐子 君

巻頭言 丸尾欽造 君

審議事項・連絡事項

《審議事項》

奈良伝賞受賞決定

候補として推薦していました佐古至弘君の受賞
 が決定しました。おめでとうございます。

1. 「らくらく登山」最終確認

クラブ参加者

石倉明美、伊藤玲子、大谷美佐子、尾北 昇、
 佐古至弘、新本英二、新本力子、田中惟介、
 初田 稔、藤井敬子、丸尾欽造、丸尾初子、
 宮本桂子、望月 強、山内信三、横田憲子、
 芳澤伸之、望月治子、正野忠之

車椅子参加者 23名

集合時間 8時 集合場所 サンホーム

山上は肌寒いので防寒が必要

(河内メンバーはひざ掛けを用意しておく)

前日準備 4月26日(土) 午後2時~4時

サンホームのおいて

2. 次期クラブ委員の選考任命について

次期会長 山内信三君より説明

次期クラブの委員長の要請が次期会長よりあり
 ました時には、会員は快く受諾をしてください
 ますようお願い致します。

3. Yサ・ユース事業「カヤックを贈ろう」への特別予算計上について

4月例会時点での献金額73000円

クラブより補填金を予算化する件

目標金額 10万円を献金する

(補填金27000円は会計より拠出)

献金の表書きは、大阪河内ワイズメンズクラ
 ブならびに有志一同とする

5月例会で阪和部遠藤部長に手渡す

4. 2008年度ウォーターセーフ・ハンドブック作成のスポンサーについて

昨年と同じく2万円提出

YMCA サービス事業から支出する

毎年の事であるため予算を組む必要がある

5. 一泊研修会 確認事項

参加者名

宿泊

丸尾夫妻、望月夫妻、新本夫妻、山内、横田、
 正野、宮本、石倉

日帰り 芳澤、伊藤メネット、大谷

会費

宿泊メン6000円 メネット 3000円

日帰メン2000円 メネット 1000円

プログラム

5/17 [西日本区と阪和部の現状について]

5/18 [阪河内クラブの役割分担について]

6. 西日本区大会 打ち合わせ会

5月18日(日) 14:00~16:00

大阪南 YMCA 一泊研修会終了後

内容の予定

代議員会、メネット会の受け付け

大会案内

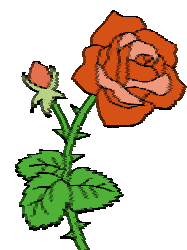
7 河内クラブ「アピール用チラシ」について

1000枚作成

各イベントで配布、河内メンバーに配布

その他

秋ゆたか先生よりブリテン記載原稿をいただく、
 例会参加希望されている





「日々前進」

東 YMCA 佐藤 悠

卓球の女子日本代表、平野 早矢香選手の座右の銘が、日々前進という言葉だそうです。自分で卓球に取り組む姿勢が素晴らしく、とても楽しそうに一生懸命、練習に取り組む姿勢がテレビで放送されていました。食事とお風呂と就寝以外は、卓球に想いをを使う生活の中でも義務感や悲壮感はなく、とても輝いた表情をしていたのがとても印象に残っています。自分の土壇場における勝負弱さを改善するために、卓球の先輩はもちろんのこと、ボクシングの世界チャンプや、麻雀で30年間無配の方に話を聞きにいたりする視野の広さも併せ持っており、放送が終わるころには大ファンになりました。

東 YMCA のサッカーにおいて、きりんリーダーの残していったものはとても素晴らしい反面、私にとってはプレッシャーに感じる部分も大きく不安に駆られがちですが、平野選手のように反省を次に向けて生かし、サッカーを通して子どもたちを青年、大人に育むにはどのように歩いていくなかに向き合いつつも、サッカーだけではない視野を広く保ちながら、平野選手のような「昨日よりも今日、今日よりも明日！」と日々前進する子どもたちを育てていきたいと、私もそうありたいと思う、今日この頃です。

SUN HOME NEWS

<< 2008年度地域包括支援センター開催セミナー >>

介護予防事業の一環として下記の年間シリーズセミナーを開催します。

折り紙の会 (4/7 ~ 年12回)

対象 60歳以上の方、もしくは家族

絵手紙交流の会 (第1火曜 6/3 ~ 年10回)

対象 65歳以上の方、もしくは家族

トールペイント~オランダフォークアート~ (第2木曜 5/8 ~ 年12回)

対象 60歳以上の方、もしくは家族

男性専科マジック&体操クラブ&料理教室 (第2金曜 5/9 ~ 年11回)

対象 60歳以上の男性

原則として東大阪市民が対象ですが、参加枠があれば、他市の方の参加も可能です。

詳しくは、地域包括支援センター職員にお問い合わせください。(大塚、吉田、弘田)

車いすパワーに驚嘆!! 阪和部テニス大会

丸尾 欽造

障害者の方々との交流をはかる阪和部主催のテニス大会が今年も堺市原池公園体育館で開催された。会場は、この4月にオープンされたばかりの美しい多目的体育館である。

阪和部主催ではあるが、中西部や六甲部からの参加者も多く、日ごろからテニスを生活の中にとりいれておられる方々ばかりのようであった。車椅子の方々のプレーぶりをじっくり観戦したのは初めてであったが、強烈なサーブを適格に決める様は圧巻であったし、ホイールチェアさばきの技術は見事の一語につきた。むしろ、ワイズメンの昔少年・元少女の方々は、足もともおぼつかない方もおられてご愛嬌もあり、なごやかなひとときであったと感じた。何事も継続することが大切であるが、この事業が、さらに充実したものとなるためには、各クラブの中に意識の広がりが求められるのではないだろうか。準備から当日のお世話にと専従された裏方の方々に感謝したい。河内からは、横田憲子さんと丸尾欽造の2名が参加したが、玉拾いと撮影を務め、ラケットには縁のない一日でありました。



開会式での記念撮影



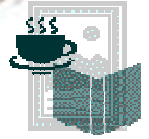
遠藤道寛部部長のご挨拶



コートサイド



ネットコーナー



連載 NO 42 「私の独り言」

初田眞佐子さん

加齢と共に月日のたつのが段々と早くなるように思えるのは私だけでしょうか。

娘の3男坊の孫も今年6歳になり、新一年生になりました。上に6年生と3年生のお兄ちゃんがいるもので、負けん気が強く楽しみでもあるが、心配でもあります。でも普段はママから離れられないような甘えん坊です。

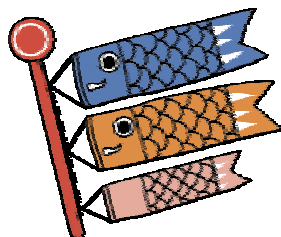
平成13年の8月に生まれたのですが、同じ時期に私も病気になる、近くの病院から関西医大病院を紹介され、急遽手術をすることになりました。8月20日のことでした。手術に至るまでの医者診断は、卵巣に6cm大の影があるから摘出するのは早い方が良いと言われました。病巣自体は良性で心配はなかったのですが、手術をするその月に生まれてくる孫は、私の生まれ変わりとなるのではないかと内心で思っていました。

手術も無事に終わり、孫も8月24日に私の手術が終わるのを確認したように元気に生まれました。しかし、私の大阪での親代わりであった叔父が4日後の28日に永眠しました。叔父の生まれ代わりかも知れません。

当時4歳の幼稚園児と1歳10ヶ月の次男、生まれたての3男をかかえた娘は、幼稚園の送迎もあり大変な時期でしたから、私は退院1週間目より手伝いに借り出され、1年6ヶ月、土日以外の毎日、自転車で片道15分かけて通いました。

一番上の孫が小学校に入学した時点で、このお手伝いから解放されましたが、今思うと退院直後の苦しかったこと、自転車の振動で腹部の手術の後が痛かったこと等が思い出されます。でも、生活にハリがあったので苦にはなりませんでした。

今になると懐かしい思い出と、孫が成長する楽しみと、手塩に掛けた孫でもやはりママにはかなわないと、一抹の寂しさを味わっています。



：散歩雑感：

中野義彦

ここ3年ほど、歩くことを心がけ、最低でも毎日1万歩を目標にしています。夕食後、その日の歩数が1万歩に達していない時、体調の良い時など家内と一緒に、また1人で近くの公園まで行く。公園は1周約150メートル程で3メートルの高低差があり、歩きやすく三々五々時間を決めたり、周回数を決めたりと、友人と連れ立ったりご夫婦でのウォーキングなど思い思いの方法で楽しんでおられます。

休日には朝食後、1時間弱の散歩で石切神社へのお参りをして過ごしていますが、少し足を伸ばして、野崎観音や瓢箪山稲荷への行き帰りに住宅地を歩いていると、思わぬ発見をすることがあります。つい先頃、満開の桜並木を上り下りして並木を見る角度を変えて見ると、それぞれの美しさがあり、真っ赤なアカネの若葉の垣根や、純白の雪柳の可憐な花の対比に見とれることがあります。

時として住宅地では人に視られているような感じがし、目線を変えると「不審者を見たら110番」の看板があり、なんとも嫌な感じがする。これって私のこと？。

今月のゲストスピーカー

鍛冶田千文(かじた ちふみ)氏

プロフィール

学生時代、YMCA 阿南国際海洋センターでキャンプリーターとして活動。

卒業後 YMCA へ入職

2001～土佐堀 YMCA 所長

2004～大阪 YMCA 国際専門学校高等課程「表現・コミュニケーション学科」設立準備室

2005～表現・コミュニケーション学科学科長

2007～土佐堀 YMCA サポートクラスディレクター兼務

特別支援教育士

センテニアルクラブ連絡職員

HAPPY BIRTH DAY

正野 忠之 1958年5月3日生
青野 剛暁 1974年5月14日生



WEDDING ANNIVERSARY

中野義彦&涌子夫妻 5月1日
山内信三&たりほ夫妻 5月27日

日本区通年強調目標 Public Relations

ワイズメンズクラブの活動は社会に光をもたらすものです。自らの活動を「世の光」として積極的にアピールし、ワイズメンズクラブの認知度を高めましょう。
守田富男 広報事業主任(八代クラブ)

西日本区強調月間 LT

組織の維持発展にはリーダートレーニングは不可欠です。クラブ・部・区・それぞれの場でのトレーニングは無論、常に自己研鑽に励みましょう。

神谷 尚孝 西日本区理事(和歌山クラブ)

5月 - 6月の予定

5月

5月2日(金)第2例会東YMCA
5月11日(日)東大阪ふれあい祭
**5月15日(木) 第1例会 サンホーム6階
メネット例会**
5月18日(日)西日本区大会打合せ 南Y
5月22日(木) 役員会 東YMCA
5月31日(土) なごみ
5月31日(土)西日本区大会打合せ 現地

6月

6月6日(金)第2例会東YMCA
6月14日(土)~15日(日)
西日本区大会 奈良100年会館
6月19日(木) 第1例会 サンホーム6階
6月21日(土) 第19期 第4回評議会・
第20期 第1回評議会
評議会終了後懇親会
6月26日(木) 役員会 東YMCA
6月28日(土) なごみ

大阪河内ワイズ 一泊研修会について

恒例の一泊研修会は5月17日(土)~
5月18日(日)にかけて、YMCA 六甲研
修センターで行われます。

テーマはワイズ活動の足元を見直すこ
とを目指して、河内クラブの役割分担に
ついて、阪和部と西日本区の現状報告と
課題について、それぞれの発題者からの
提言をうけて協議を行います。

参加者は14名(日帰り参加3名)と少な
目ですが、よき研修と交流がなされ、ク
ラブの活性化に反映することが期待され
ます。

Wind From Kawachi

目に青葉、山ホトトギス 初かつお。野山は新緑に包まれ春爛漫です。GW・大型連休も「毎日が日曜日」の身には小さな連休である。しかし、旅は元気な間に行くものだとつくづく感じます。家内との約束の結婚40年の記念旅行も、行こうねと約束してからかなりの年月が過ぎてしまった。まだ約束を履行していない。時間が無いと逃げていたが、時間の調整はいつでも出来る。しかし、健康の調整はかなり難しい。
(M.H)

第33期 クラブ 役員

会長:丸尾 欽造 副会長:山内 信三 書記:初田 稔・大谷美佐子 会計:藤井 敬子・芳澤 伸之
メネット会長:丸尾 初子 直前会長:望月 強 連絡主事:濱添 吉生

例会場・役員会場 : サンホーム 東大阪市御厨南3-1-18 TEL 06-6787-3733
大阪河内クラブホームページアドレス <http://1st.geocities.jp/yskawachi2007/>